

【学位論文の評価基準】

【心理学専攻 修士学位論文】

修士学位論文は、専攻のディプロマ・ポリシーに基づき、以下のような評価項目を考慮に入れて、総合的に評価を行う。

1. 研究テーマの選択が適切であること
2. 先行研究の取り扱いが適切であること
3. 研究内容が新規性を有していること
4. 研究で使用した測定方法の適用の仕方が適切であること
5. 論旨が論理的に展開されていること
6. 文章の表記および表現方法が適切であること

【教育学専攻 修士学位論文】

修士学位論文は、専攻のディプロマ・ポリシーに基づき、以下のような評価項目を考慮に入れて、総合的に評価を行う。

1. 論文内容に合った適切なタイトルであること。
2. 論文の体裁、文章表現、表記が適切であること。
3. 実施した研究方法（調査や授業実践を含む）が適正であること。
4. 結論に至るまでの論旨が論理的に展開されていること。
5. 研究内容に新規性・独創性を有し、教育学研究や教育実践に還元できるような視点が組み込まれていること。
6. 先行研究の取り扱いを含む研究倫理の問題に対して十分な留意がなされていること。

比較文化専攻

【博士前期課程】

修士学位論文は、専攻のディプロマ・ポリシーに基づき、以下のような評価項目を考慮に入れて、総合的に評価を行う。

1. 研究テーマの選択が適切であること
2. 先行研究や資料・文献の取り扱いが適切であること
3. 研究方法を明確に提示していること
4. 論旨が明確であること
5. 学術的貢献や新規性を有していること
6. 論文の体裁、文章表現、表記が適切であること

【博士後期課程】

博士学位論文は、専攻のディプロマ・ポリシーに基づき、以下のような評価項目を考慮に入れて、総合的に評価を行う。

1. 研究テーマの選択が適切で、新規性を有していること
2. 国内外の先行研究を把握し、資料・文献の取り扱いが適切であること
3. 研究方法を明確に提示していること
4. 論旨が明確であること
5. 知見による専門分野への学術的貢献や社会的貢献を有していること
6. 論文の体裁、文章表現、表記が適切であること